

第 20 回シンポジウム「高齢社会を共に生きる」の実践報告要旨

[実践報告]

「ひとりでも介護が必要でも安心して暮らせるまちづくり」
—既存住居を活用した都市型地域分散サービスへの挑戦—
濱田 和則（門真晋栄福祉会総合施設長）

平成 15 年ごろ、先進地域では民家型の宅老所や地域分散サービスなどが始まっていたが、都市部ではその気配すら見えてこない状況であった。高齢者・サービス利用者の生活を支援するために、地域分散サービスや小規模多機能サービスが必要とされるようになっていたので、既存住居を活用して、その実現に取り組んだ。都市型小規模多機能施設の有効性、実現可能性を見出し、地域・家族・子育てへと活動が広まった。

（所在地）大阪府門真市北島町 1 2 - 3

「住民流のふくしまちづくり」
—地域住民の福祉活動と地域密着サテライトケアの協働—
中里 仁（せんだんの社社長）

「すべての人がひとりの人間として尊重され、個性が輝く共生の地域づくり」を目指し、小学校区毎にサテライトケアの拠点を整備し、まちづくりを進めてきた。サービス提供者と利用者の関係だけでなく、同じ地域の生活者として、地域の課題について連携・協働し、住民が主人公になれる活動を進め、独自の「小規模多機能サービス」や「託児サービス」、障がいを持った方との協働による「地域生活支援活動」を展開した。

（所在地）仙台市青葉区国見ヶ丘 7 - 1 4 1 - 9

「プロジェクト『M』」
—本当に地域の中で暮らしていくためへの挑戦—
永野 ユミ（水俣市社会福祉協議会 福祉でまちづくり委員会会長）

今回のプロジェクト『M』では、住民代表で組織された福祉でまちづくり推進委員会を中心に住民参加で事業を推進してきた。住民と協働して取り組む小地域ネットワークやふれあい・いきいきサロンのステップアップ・発展強化を図るとともに、住民主体の新たな活動として『地域リビング』を 5 箇所開設し、地域の中のお茶の間づくりに努めた。その結果、地域の中で逆デイサービスや逆ショートステイなどが始まった。

（所在地）熊本県水俣市牧ノ内 3 - 1